

“超”を目指す軸受技術研究会（第3種，主査 森 淳暢）：本研究会は，軸受技術の基礎研究や応用・開発に携わっている者，気軽になんとか参加してみたい者が集っているいろいろな意味での“超”を議論し，情報を交換する場として運営されている．本年度は，委員数44名，平均出席者数は30名程度で，関西大学を開催場所とし，4回の研究会と1回の特別講演会を開催した．研究会での講演タイトルは以下のとおりである．

第5回研究会（平成14年5月25日 於：関西大学）①円筒案内軸受の軸受面の流れに関する観察（日立空調システム 松尾昌憲），②小型機器用固体／流体潤滑ハイブリッドすべり軸受の性能評価（MoS₂ ショット処理軸受を中心に）（スピンドルデバイス研究所 菱田典明，龍谷大 平山朋子，大阪電通大 矢部寛），③高速回転軸用動圧空気フォイル軸受の回転特性（大阪産業大 斉藤康幸，林 和宏，平佐多敬二），④テンションタイプフォイル軸受の試作（関西大 秋山大樹，森 淳暢，多川則男）．

第6回研究会（平成14年8月2日 於：関西大学）①部分円弧ジャーナル軸受様すきま内流れの構造に関する研究（舞鶴高専 藤田幸也，野間正泰，関西大 森 淳暢），②弾性流体潤滑面の温度測定（東京理科大 八木和行，東工大 京極啓史，中原綱光），③エンジンのコネクティングロッド軸受（大阪電通大 小笹俊博）．

第7回研究会（平成14年9月28日 於：関西大学）①ジャーナル滑り軸受の混合潤滑摩擦特性に及ぼすランケーションの影響（奈良高専 野々垣 稔），②HDD用動圧空気軸受スピンドルモータの開発（松下寿電子工業（株） 山本武克，得能保典，城野政博，池川泰造），③CN_x（窒化炭素）膜を有する気体・すべり軸受のすべり摩擦における超低摩擦現象について（オイレス工業（株） 富田博嗣，小沢秀夫，名工大 梅原徳次）．

第8回研究会（平成14年11月30日 於：関西大学）①固体NMR装置における空気軸受（試料を高速回転・・・120万rpm）（日本電子（株） 樋岡克哉，東北学院大 十合晋一，弘地広介），多重巻き型動圧空気フォイルジャーナル軸受に関する研究（東京理科大 吉本成香），③国際学会報告・29th Leeds-Lyon Symp. on Tribologyに参加して（大阪産業大 林 和宏），・ASIATRIB2002 (in Jeju) 学会報告（龍谷大 平山朋子）．

特別講演会（平成15年3月29日 於：関西大学）生体超分子ナノマシンの構造と機能（大阪大 難波啓一）．

研究会終了後には，話題提供者を囲んで簡単な懇親会を設けることが慣例となっており，毎度，ざっくばらんな意見交換がなされている．次年度も軸受技術に関わる話題を基とし，年4回の研究会の開催を予定している．